
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2008年第43週
(10月20日～10月26日)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">* 2008年10月29日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
http://survey.tokyo-eiken.go.jp/* 今週は感染症豆知識「インフルエンザ」も掲載しています。 |
|--|

平成20(2008)年10月30日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2008年43週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		40週	41週	42週	43週		43週	年累計
一 類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二 類	急性灰白髄炎							1
	結核	66	73	39	81	3563	350	22276
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
	鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三 類	コレラ		1			6		45
	細菌性赤痢	2	2	1	1	55	9	263
	腸管出血性大腸菌感染症	8	7	35	9	371	61	3878
	腸チフス		1	1		11	1	49
	パラチフス					5		24
四 類	E型肝炎				1	7	1	37
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1				26	4	152
	エキノкокクス症							13
	黄熱							
	オウム病							7
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱					1		3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病					5	8	137
	デング熱	2				25	6	87
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						3	86
	日本脳炎						1	3
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							4
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							2
マラリア		1	1		21		46	
野兎病							4	
ライム病							4	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	4	2	1	2	68	15	736	
レプトスピラ症					3		32	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		40週	41週	42週	43週	年累計	43週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	5	3	1	7	160	12	694
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1				25	5	196
	急性脳炎 ***	1			1	9		156
	クリプトスポリジウム症		1			4		8
	クロイツフェルト・ヤコブ病					12	3	128
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				19		99
	後天性免疫不全症候群	14	4	10	16	445	11	1255
	ジアルジア症					19		67
	髄膜炎菌性髄膜炎					2		10
	先天性風しん症候群							1
	梅毒	4	2	5	3	163	8	671
	破傷風	1				5	3	105
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					10	3	69
	風しん			1	1	41	1	281
麻しん	3	1		4	1158	10	10871	
2008/10/29集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** 2008年5月12日から指定された。

*** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 81件 肺結核56件、その他25件で、推定感染地は国内80件、中国1件。年齢は5歳未満1件、20歳代9件、30歳代11件、40歳代14件、50歳代11件、60歳代11件、70歳代11件、80歳代12件、90歳代1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 ソンネで、推定感染地はインドネシア、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。
腸管出血性大腸菌感染症 9件 有症状者4件、無症状病原体保有者5件で、血清型・毒素型はO157(VT2)5件、O111(VT1VT2)4件であった。年齢は10歳未満1件、10歳代2件、20歳代3件、30歳代2件、40歳代1件であった。O111(VT1VT2)の4件は、大田区内の保育園における集団発生と関連していた(関連する症例は41週に1件、42週に30件報告されている)。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 推定感染地は長野県で、喫食した馬肉との関連が疑われている。
レジオネラ症 2件 肺炎型2件で、50歳代男性と80歳代男性、推定感染地は都内と国内(詳細地域不明)であった。1件ではクーリングタワーとの関連が疑われており、他の1件の感染経路は不明であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 7件 腸管アメーバ症4件、腸管外アメーバ症3件で、推定感染地は国内6件、タイ1件、推定感染経路は性的接触3件(同性間1件、異性間1件、性別不明1件)、飲食物による経口感染1件、その他3件であった。

急性脳炎 1件 病原体はアデノウイルス1型で、患者は10歳未満であった(平成16年の発症例)。

後天性免疫不全症候群 16件 無症候キャリア10件、AIDS 3件、その他3件で、推定感染地は国内15件、中国1件、推定感染経路は性的接触15件(同性間14件、異性間1件)で、他の1件は医療行為との関連が疑われている。

梅毒 3件 早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、無症候梅毒1件で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路はすべて性的接触(同性間1件、異性間1件、性別不明1件)であった。

風しん 1件 検査診断例の10歳代男性。風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

麻しん 4件 麻しん(検査診断例)3件、麻しん(臨床診断例)1件で、年齢は5歳未満1件、20歳代2件、30歳代1件であった。麻しん含有ワクチン接種歴は1回3件、不明1件であった。

定点把握対象疾患 報告数 2008年43週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		40週	41週	42週	43週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	74	88	96	113	0.77	146	150
	咽頭結膜熱	19	24	18	28	0.19		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	160	208	155	232	1.59		
	感染性胃腸炎	501	528	515	605	4.14		
	水痘	58	74	88	84	0.58		
	手足口病	176	178	141	166	1.14		
	伝染性紅斑	7	10	6	27	0.18		
	突発性発しん	91	100	96	111	0.76		
	百日咳	3	1	3	6	0.04		
	ヘルパンギーナ	60	37	29	27	0.18		
	流行性耳下腺炎	74	78	104	84	0.58		
	不明発しん症 (注1)	14	14	11	19	0.13		
	MCLS(川崎病) (注1)	2	4	0	1	0.01		
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	5	19	14	8	0.03	282	290
眼科	急性出血性結膜炎	2	1	0	0	0.00	38	39
	流行性角結膜炎	11	18	8	20	0.53		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	1	0	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	5	0	0	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	4	2	6	13	0.54		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	2	3	0.13		
2008/10/29集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻疹、成人麻疹は2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は増加した。過去のピークと同じレベルに約8週早く達しており、特に注意が必要である。
- ・手足口病の定点当たり報告数は微増した。夏季のピーク時以降、過去の同時期よりやや高いレベルで推移しており、引き続き注意が必要と思われる。
- ・伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。今後の推移に注意が必要である。
- ・百日咳の定点当たり報告数は増加した。2007年同時期のように報告数が増加する可能性があり、今後の推移に注意が必要である。
- ・マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。過去の同時期より高いレベルとなっており、注意が必要である。
- ・クラミジア肺炎の定点当たり報告数は増加した。

(定点医療機関からのコメント)

池袋保健所管内定点医療機関

- ・マイコプラズマ肺炎の診断(成人女性)。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年43週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	16			6	2				1	
～11か月	31			47	6	15	1	51		1
1歳	39	4	10	85	10	39	1	52		7
2歳	14	1	9	60	17	28	1	6	1	2
3歳	8	4	21	55	12	26	6	1		4
4歳	3	7	32	48	20	13	7		1	4
5歳		3	39	46	2	15	4		1	3
6歳	1	2	35	41	5	8	1			3
7歳	1	1	19	24	6	6	4	1		
8歳		1	14	18		5				
9歳		2	15	15		1	1			
10～14歳		2	20	52	2	6	1		1	1
15～19歳				18						
20～29歳		1	18	90	2	4			1	2
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	113	28	232	605	84	166	27	111	6	27
先週比	17	10	77	90	-4	25	21	15	3	-2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		2				
～11か月	1	5				
1歳	4		1			
2歳	8	1				1
3歳	9	3				
4歳	17	1		2		3
5歳	16	1				
6歳	11					
7歳	4	2				
8歳	7	2				
9歳	2					
10～14歳	3	1		3		1
15～19歳						
20～29歳	2	1		1		3
30～39歳						5
40～49歳				1		5
50～59歳				1		1
60～69歳						1
70～79歳						
80歳以上						
合計	84	19	1	8		20
先週比	-20	8	1	-6		12

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数 【年齢階級別】 2008年43週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		1
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳	1	
20～29歳		2
30～39歳		1
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	1	4

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年43週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	7			2		5			1	
中央区			3	5	1	3		2		
みなと	13	4	14	27	4	1		4		
新宿区	13		7	6	2	2		6		
文京	2	3		2		1				
台東	2			12	1	8		2		
墨田区	1		3	5	5	1		6		
江東区		2	4	46		10	2	8		1
品川区	4		7	41	5	12	1	5		1
目黒区			1	6	2			1		
大田区	7	2	9	56		19	10	9	1	
世田谷	4	1	14	32	5	7	1	3		1
渋谷区		1	2	17	1	1		1		1
中野区			7	47		3				1
杉並		2	4	36	3	3		6		
池袋		2	1	6	2	4		1		
北区			4	10	2	1		5		3
荒川区	3		11	20	1	2		3		
板橋区				7	2	8	1			
練馬区	1		4	9		3	4	2		5
足立				15	7	4	3	4	1	
葛飾区		1	5	6	6	3		1		3
江戸川	4	4	35	16	7	1		4		5
八王子市	3	4	27	60	10	4	3	4	3	
西多摩	6		1	14	1	1		1		
南多摩	6		3	13		1		12		1
町田			40	40	6	36		7		4
多摩立川			8	12	3					
多摩府中			7	9	3	18		5		
多摩小平	37	2	11	28	2	4	2	9		1
島しょ					3					

東京都合計	113	28	232	605	84	166	27	111	6	27
-------	-----	----	-----	-----	----	-----	----	-----	---	----

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2008年43週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区						1
みなと	1	1				
新宿区	1					2
文京	2					
台東	2					
墨田区	5	1				
江東区	1					
品川区	2	1	1			
目黒区				1		
大田区	4	3				1
世田谷	5	3				2
渋谷区						
中野区	7					
杉並	2					
池袋	1					
北区						
荒川区	11	1				
板橋区	1					1
練馬区		1				
足立	7			1		3
葛飾区	5	2		1		2
江戸川	7			1		1
八王子市	7	3		1		5
西多摩	1					
南多摩	1			1		
町田	10	1		1		
多摩立川						
多摩府中	1	1		1		
多摩小平		1				2
島しょ						

東京都合計	84	19	1	8	-	20
-------	----	----	---	---	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区	1	
みなと		
新宿区		
文京		1
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		1
練馬区		
足立		1
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		1
島しょ		

東京都合計	1	4
-------	---	---

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2008年43週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	2.33			0.67		1.67			0.33	
中央区			1.00	1.67	0.33	1.00		0.67		
みなと	2.60	0.80	2.80	5.40	0.80	0.20		0.80		
新宿区	2.17		1.17	1.00	0.33	0.33		1.00		
文京	0.67	1.00		0.67		0.33				
台東	0.67			4.00	0.33	2.67		0.67		
墨田区	0.33		1.00	1.67	1.67	0.33		2.00		
江東区		0.50	1.00	11.50		2.50	0.50	2.00		0.25
品川区	0.67		1.17	6.83	0.83	2.00	0.17	0.83		0.17
目黒区			0.33	2.00	0.67			0.33		
大田区	0.78	0.22	1.00	6.22		2.11	1.11	1.00	0.11	
世田谷	0.50	0.13	1.75	4.00	0.63	0.88	0.13	0.38		0.13
渋谷区		0.25	0.50	4.25	0.25	0.25		0.25		0.25
中野区			1.17	7.83		0.50				0.17
杉並		0.33	0.67	6.00	0.50	0.50		1.00		
池袋		0.40	0.20	1.20	0.40	0.80		0.20		
北区			1.33	3.33	0.67	0.33		1.67		1.00
荒川区	1.50		5.50	10.00	0.50	1.00		1.50		
板橋区				1.17	0.33	1.33	0.17			
練馬区	0.25		1.00	2.25		0.75	1.00	0.50		1.25
足立				3.00	1.40	0.80	0.60	0.80	0.20	
葛飾区		0.25	1.25	1.50	1.50	0.75		0.25		0.75
江戸川	0.80	0.80	7.00	3.20	1.40	0.20		0.80		1.00
八王子市	0.75	1.00	6.75	15.00	2.50	1.00	0.75	1.00	0.75	
西多摩										
南多摩	1.50		0.75	3.25		0.25		3.00		0.25
町田			10.00	10.00	1.50	9.00		1.75		1.00
多摩立川			1.33	2.00	0.50					
多摩府中			0.70	0.90	0.30	1.80		0.50		
多摩小平	6.17	0.33	1.83	4.67	0.33	0.67	0.33	1.50		0.17
島しょ					3.00					

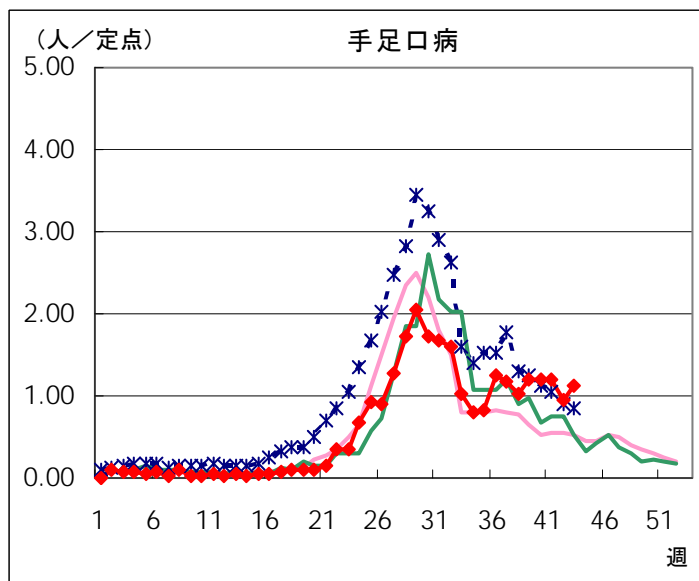
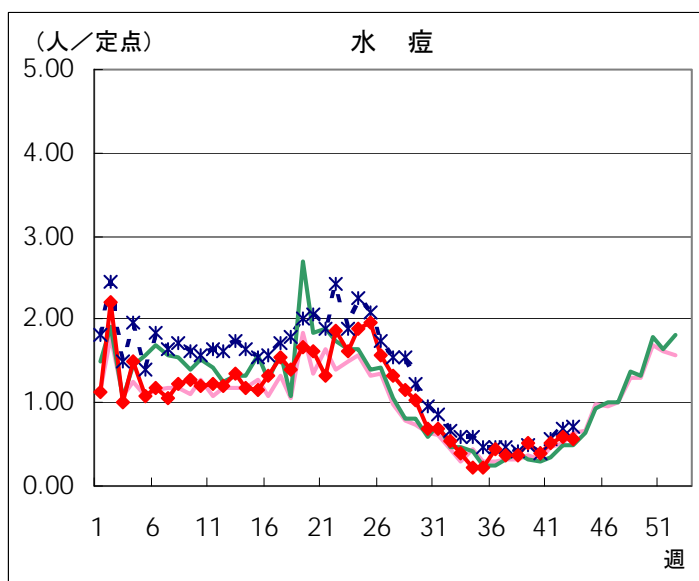
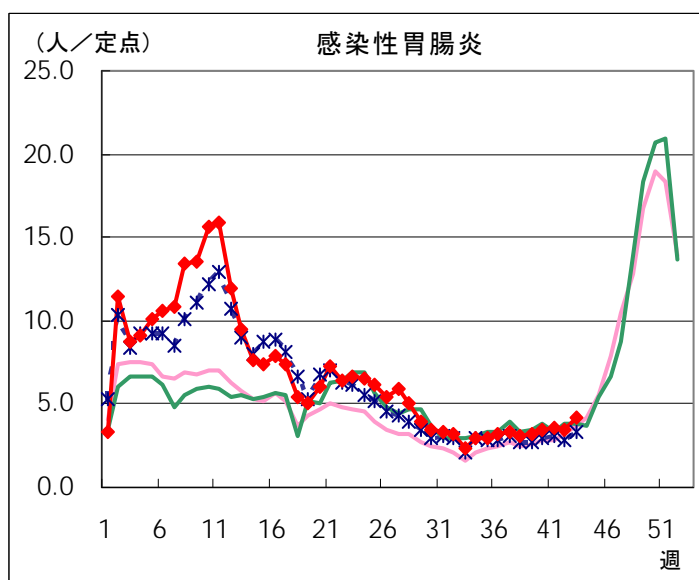
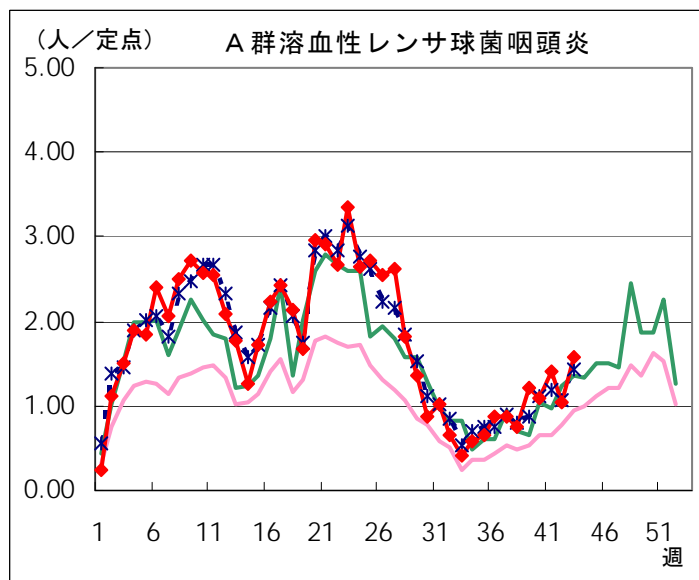
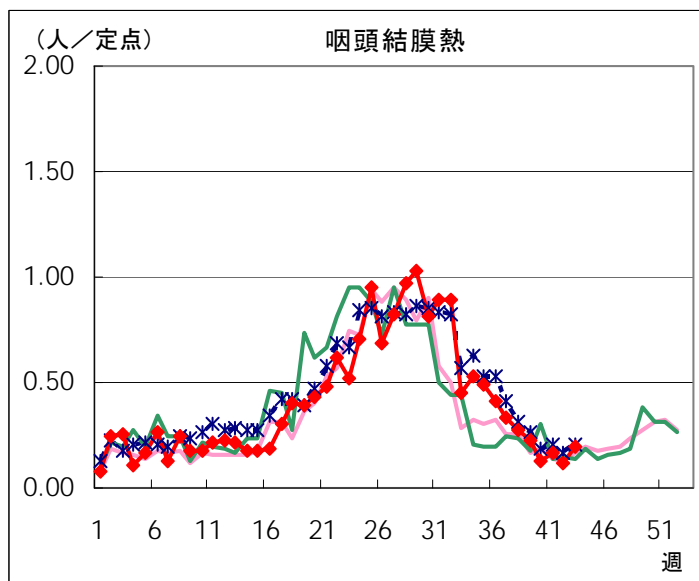
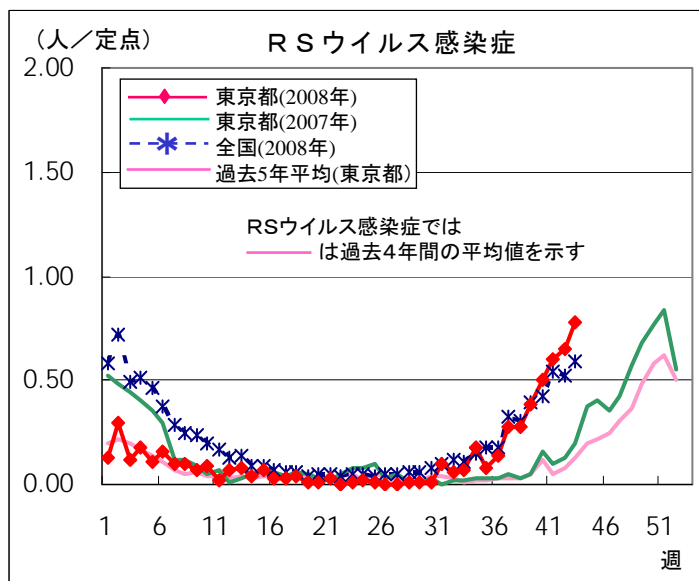
東京都	0.77	0.19	1.59	4.14	0.58	1.14	0.18	0.76	0.04	0.18
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

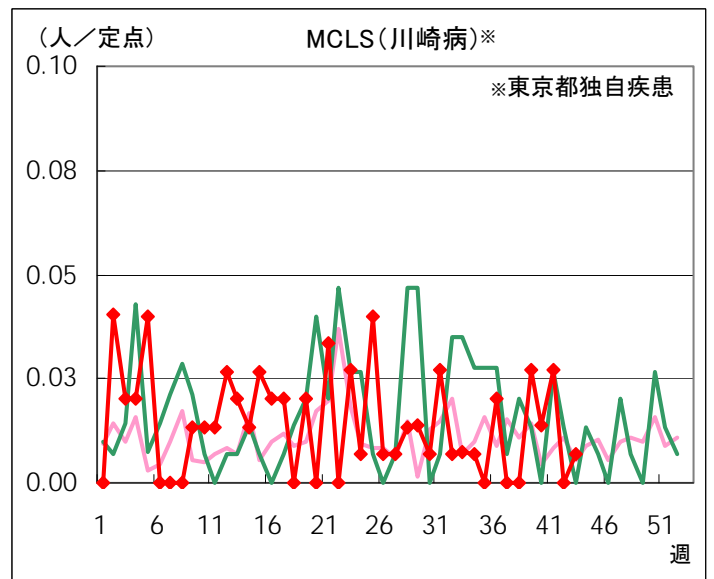
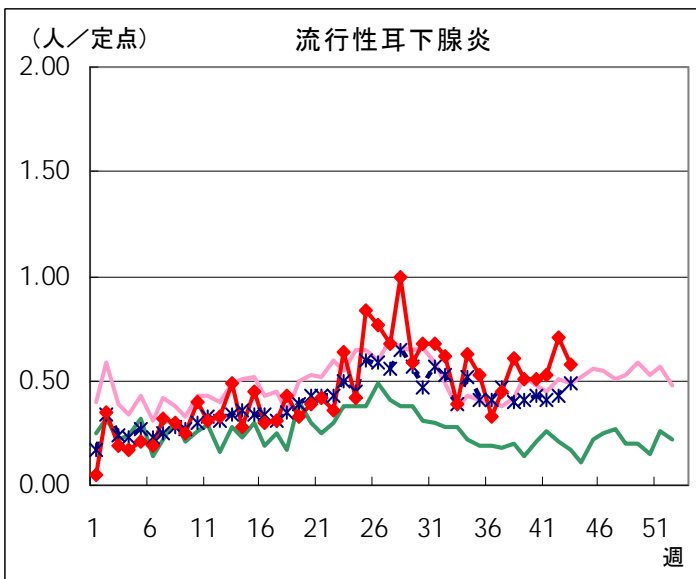
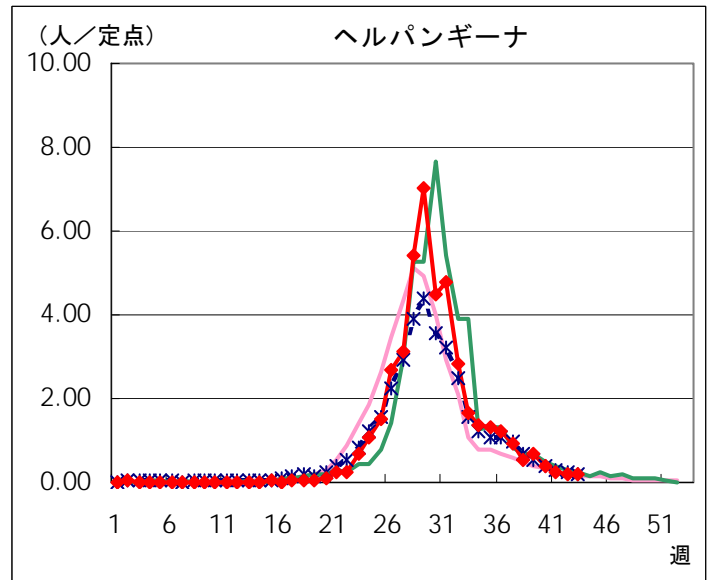
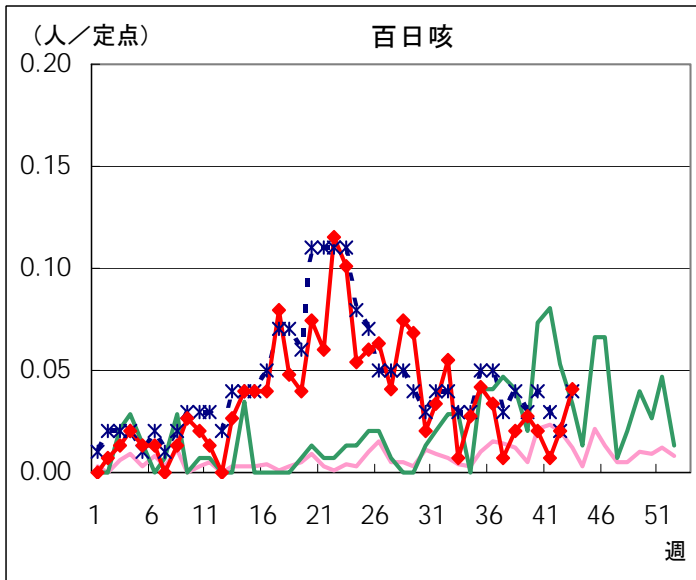
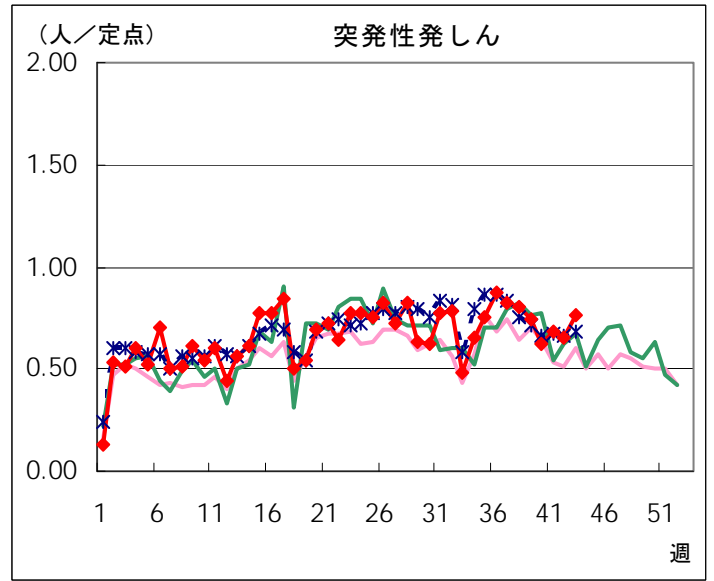
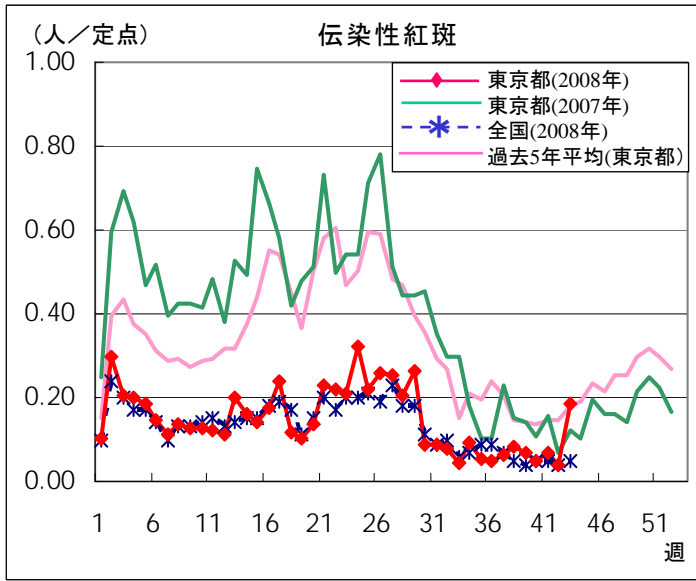
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田						
中央区						1.00
みなと	0.20	0.20				
新宿区	0.17					1.00
文京	0.67					
台東	0.67					
墨田区	1.67	0.33				
江東区	0.25					
品川区	0.33	0.17	0.17			
目黒区				0.17		
大田区	0.44	0.33				0.50
世田谷	0.63	0.38				1.00
渋谷区						
中野区	1.17					
杉並	0.33					
池袋	0.20					
北区						
荒川区	5.50	0.50				
板橋区	0.17					0.50
練馬区		0.25				
足立	1.40			0.10		1.50
葛飾区	1.25	0.50		0.11		2.00
江戸川	1.40			0.08		0.50
八王子市	1.75	0.75		0.10		2.50
西多摩						
南多摩	0.25			0.11		
町田	2.50	0.25		0.11		
多摩立川						
多摩府中	0.10	0.10		0.05		
多摩小平		0.17				1.00
島しょ						

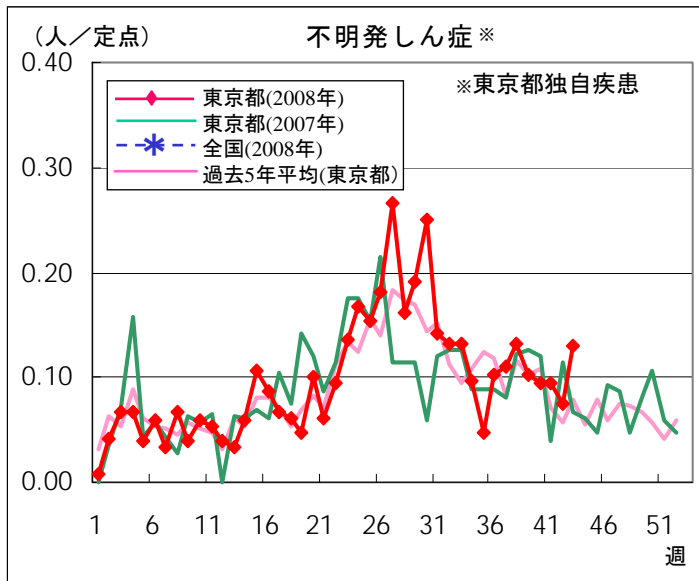
東京都	0.58	0.13	0.01	0.03	-	0.53
-----	------	------	------	------	---	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年43週現在

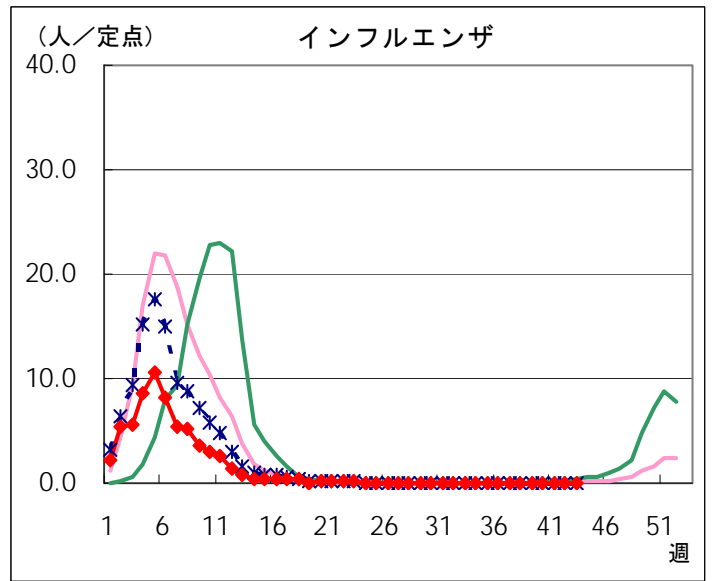
◆ 小児科定点



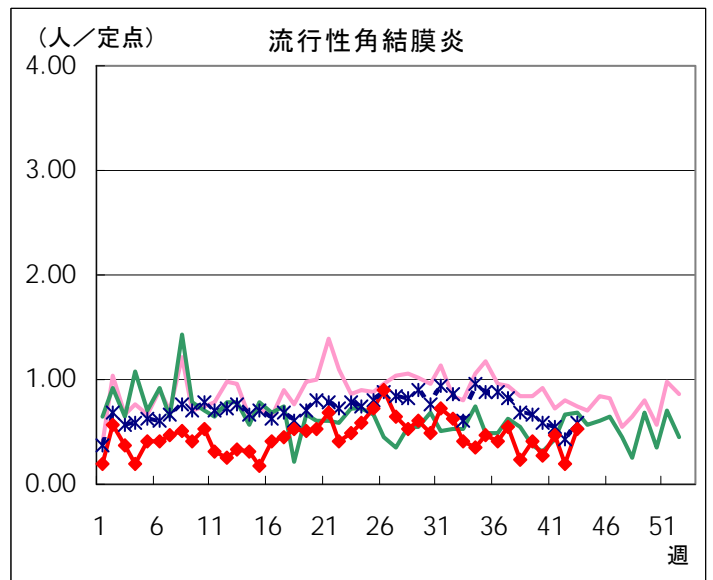
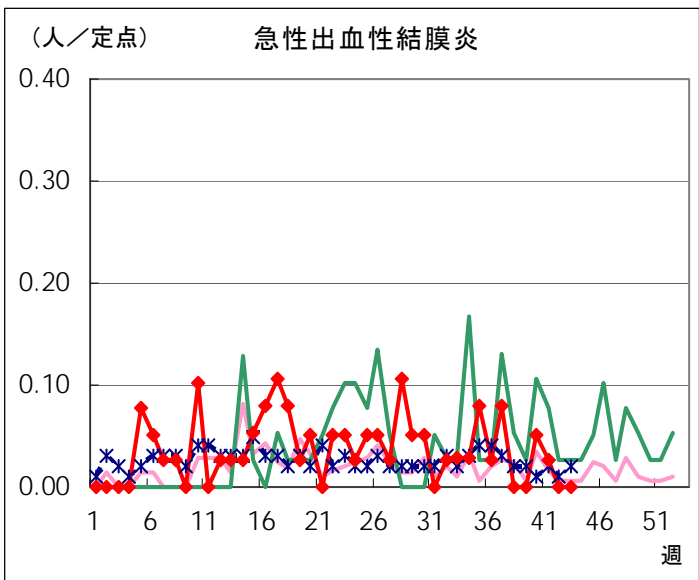




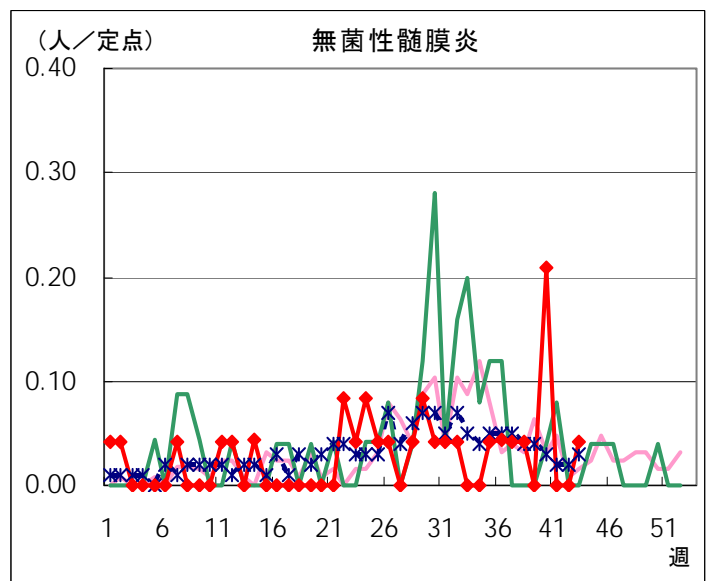
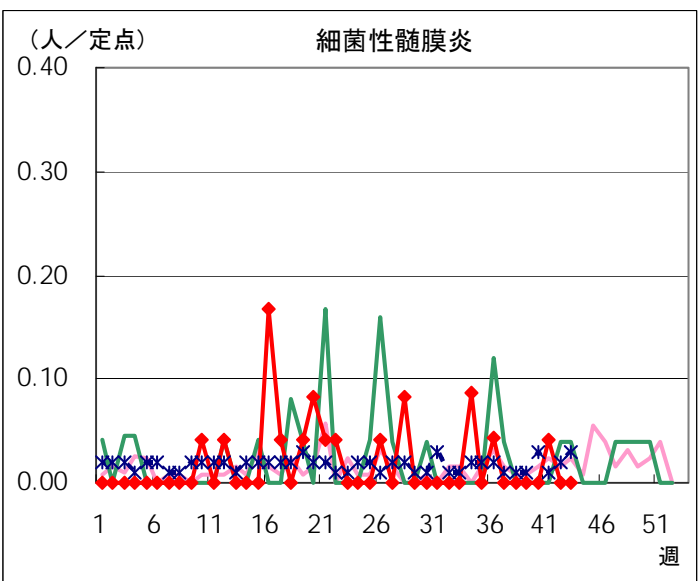
◆ インフルエンザ定点

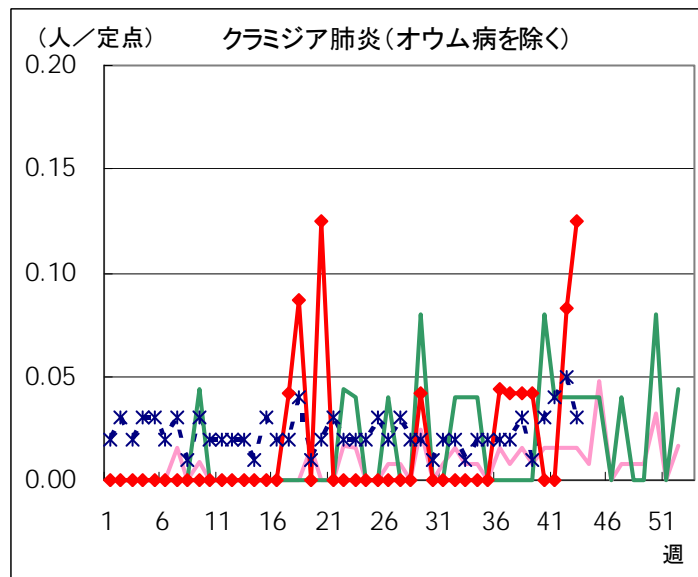
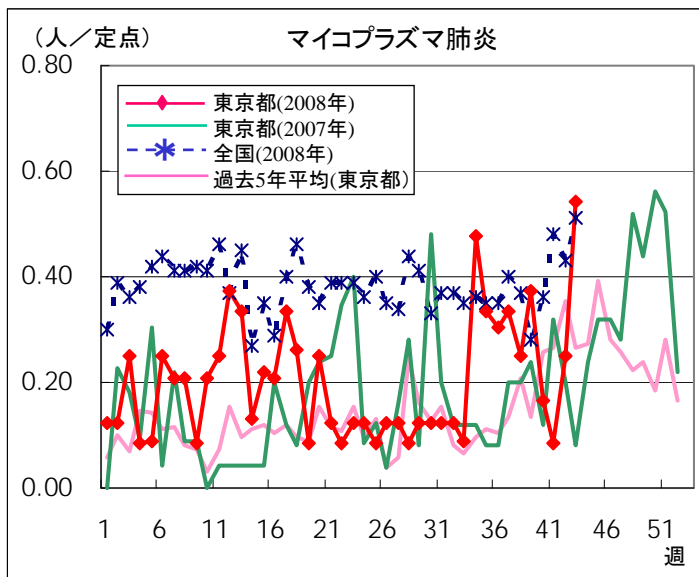


◆ 眼科定点

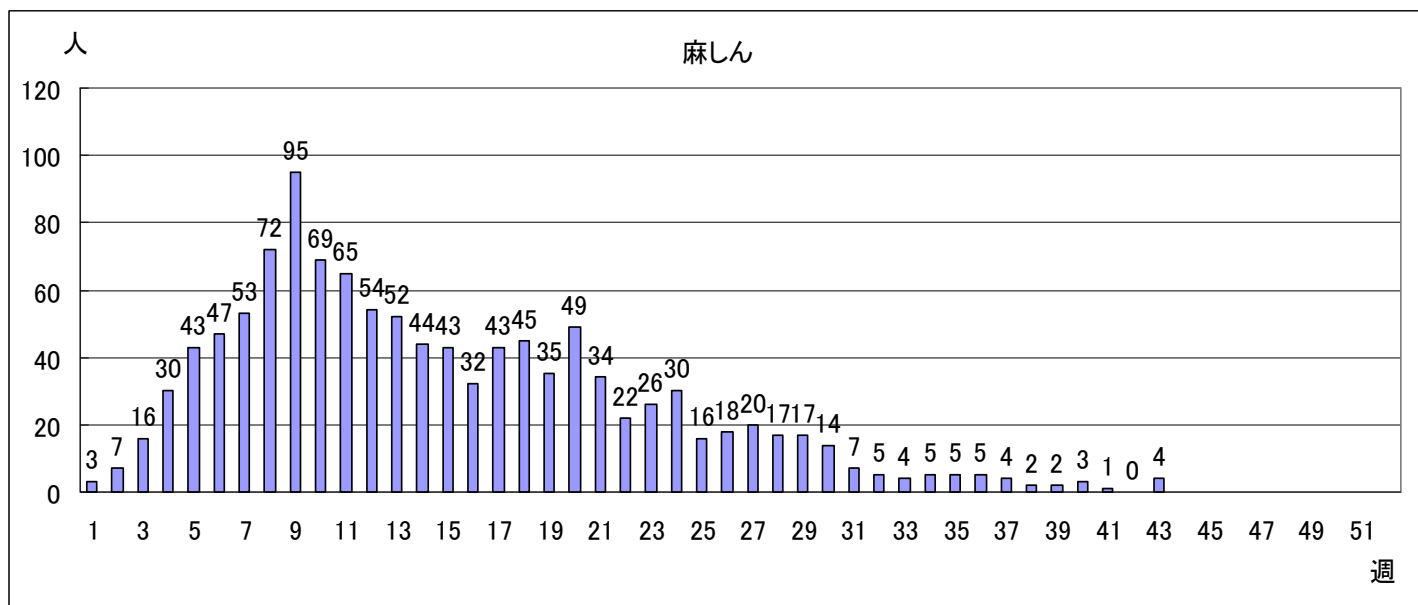


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年43週現在



病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
10/10	髄膜炎	21	髄液	ムンプスウイルス	遺伝子
10/11			咽頭拭い液		
10/10	髄膜炎	0	髄液	エンテロウイルス	
10/10	肺炎	3	咽頭拭い液	RSウイルス	
10/10	気管支喘息	4M	咽頭拭い液	RSウイルス	
10/10	上気道炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
10/11	インフルエンザ	14	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型	
10/11	無菌性髄膜炎	11	髄液	エンテロウイルス	
10/11	急性細気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス エンテロウイルス RSウイルス	
10/12	無菌性髄膜炎	4	髄液	ライノウイルス	
10/14	インフルエンザ	40	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型	
10/14	流行性耳下腺炎	2	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
10/14	急性気管支炎	3	咽頭拭い液	RSウイルス	
10/14	急性気管支炎、百日咳	4	咽頭拭い液	百日咳菌	
10/15	急性上気道炎	4M	咽頭拭い液	アデノウイルス RSウイルス	
10/15	気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
10/15	急性咽頭炎	8	咽頭拭い液	アデノウイルス	
10/16	肺炎	1M	糞便	RSウイルス	
			咽頭拭い液	RSウイルス エンテロウイルス アデノウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
10/17	手足口病	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
10/17	急性気管支炎	2	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス1型	
10/17	急性咽頭炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
記載無し	髄膜炎	20	咽頭拭い液	ライノウイルス	
			糞便	エンテロウイルス	
			髄液	エンテロウイルス	

◇積極的疫学調査による搬入検体

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
9/	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	59	血液(菌株)	G群溶連菌 <i>Streptococcus dysgalactiae</i> <i>ssp. equisimilis</i>	分離同定

**40週報告の全数把握対象疾患症例からの検体

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008年							
		35週	36週	37週	38週	39週	40週	41週	42週
ウイルス	アデノウイルス	14	9	5	8	4	3	18	6
	ライノウイルス	2	3	3	4		2	8	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	19	10	6	15	11	11	16	8
	単純ヘルペスウイルス			1			1	1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス			1					
	ヘルペスウイルス6/7	3	2	9	3	7	6	9	
	EBウイルス	2	3	3	5	3	2	1	
	サイトメガロウイルス	1	4	2	1	3	1	3	
	ムンプスウイルス	2	1	1		2	2		3
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19			1					
	RSウイルス	1			6		2	9	7
	ノロウイルス				1				
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								
インフルエンザウイルスB			1	2				2	
デングウイルス									
その他のウイルス			2	1		1	1	1	
細菌	カンピロバクター		1					2	
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌	1		1	2	1	1	1	
	その他の細菌				2	4			1
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年35週～42週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数	4	59	67	26	49	4	6	4	3	13	1	33	11				176	
ウ イ ル ス	アデノウイルス		15	10	6	3	4	1	5		2	4					17	
	ライノウイルス		6	7	1	2	1				1						6	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		15	15	4	8	1		2	11		10	1				29	
	単純ヘルペスウイルス					1												2
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	1
	ヘルペスウイルス6/7			1					2			13	1					22
	EBウイルス		4	1								1	3					10
	サイトメガロウイルス		2						1			6	1					5
	ムンプスウイルス					2								8				1
	麻しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1						
	RSウイルス		3	21														1
	ノロウイルス				1													
	ロタウイルス																	
	インフルエンザウイルスAH1																	
	インフルエンザウイルスAH3																	
	インフルエンザウイルスB	4	1															
デングウイルス																		
その他のウイルス		1	5															
細 菌	カンピロバクター				3													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌						6										1	
その他の細菌		4	1			1											1	
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

インフルエンザ

2007/08 シーズンは例年より早く 2007 年第 47 週に全国レベルでの流行が始まり、冬休みをはさんで第 51 週と 2008 年第 4 週に 2 つのピークがみられた。第 14 週に全国レベルでの流行は終息したが、一部の地域では流行が遷延し、沖縄では 4 シーズン連続で夏季に流行がみられた。

全国の地方衛生研究所で分離されたインフルエンザウイルスは、A 型の AH1 亜型 3,811、AH3 亜型 526、B 型 316(8 月末現在)と、AH1 亜型が主で、AH3 型と B 型は流行後半に少数の分離が続いた。ノルウェーなどヨーロッパでは、AH1 亜型オセルタミビル耐性株が高頻度に分離されたが、日本では 1.6%と少なかった。

今夏は季節はずれの集団発生の報告が相次ぎ、6 月には青森の高齢者救護施設と岡山の大学で AH3 亜型、7 月には千葉の小学校で B 型、8 月には横浜の成人の寮、9 月には栃木の中学校で AH3 亜型が分離されている。

2008/09 シーズンのワクチン株は、2007/08 シーズン流行株に近縁な株に 3 つとも変更され、AH1 亜型は A/ブリスベン/59/2007、AH3 亜型は A/ウルグアイ/716/2007、B 型は山形系統に属する B/フロリダ/4/2006 が選択された

一方、新型インフルエンザへの変異が懸念されるインフルエンザ A/H5N1 ウイルスの人感染例は 2008 年 9 月 10 日現在、インドネシアの 137 例(うち死亡 112 例)を筆頭に世界で 387 例(うち死亡 245)にのぼっている。日本ではプレパンデミックワクチンの試験接種が研究班レベルで開始され、新型インフルエンザ対策ガイドラインの改訂作業中である。

(文責:国立感染症研究所感染症情報センター山下和予)